

③ 3年生 | 「こん虫を調べよう」

ネイチャーゲームを使って
昆虫の擬態を実感させる

いくつかの教科書会社の教科書には、単元の最後に昆虫の擬態について短い読み物が載っています。昆虫の擬態は、写真集で紹介されるような特別な昆虫だけではなく、どの昆虫にも見られます。

しかし、その目的を読み物だけで子どもたちが理解するのは難しいかもしれません。そこで、昆虫の擬態を子どもたちに実感させるためにネイチャーゲームの「カモフラージュ」という活動を紹介します。

○ 「カモフラージュ」

<ねらい>

自然の中でロープに沿って置かれた人工物を探し出すことで、五感のうちの視覚を特に働かせて注意深い観察力を養うとともに自然の中の擬態を理解させる。

<用意する物>

15mくらいのロープ、バンダナ、人工物15個くらい
(例: えんぴつ、木製洗濯ばさみ、クリップ、カラーボール、黒いひも、スポンジ、キューピー人形、プラスチック製のカブトムシやニンジンなど)

<方法>

- ① 事前にコースを決め、コース沿いにロープを置き、片側に人工物を設置する。人工物は隠さず、姿勢を変えると見える場所に置く。また、置き場所や順序などを忘れないようにメモを取っておく。
- ② コースより少し離れた場所でルールを説明する。
 - ・ロープのそばには人工物が置いてある。
 - ・範囲は奥行きが1m、高さが1～1.5mくらい。
 - ・ひとりずつゆっくり歩きながら、いくつ人工物があるか、他の人に気付かれぬように数える。
 - ・前の人を追い越してもよいが、後戻りはできない。
 - ・触ったり、ロープを越えたりしてはいけない。
 - ・ゴールで待っているリーダーにそっと数を教える。

③ ゲーム開始

▼ 「人工物は？」 「カラーボール、カブトムシ、ニンジンを発見！」



- ④ 正解できない場合は、もう一度チャレンジする。
- ⑤ 全員が最低2度ずつ探し終わったら、ひとつずつ人工物が置いてある場所を確認しながら答え合わせをする。
- ⑥ バンダナに人工物を置き、見つけやすかったものと見つけにくかったものを話し合う。

○ この実践からわかること

活動を行った後、子どもたちに見つけやすかった物と見つけにくかった物を確認します。すると、周りにある自然の物と色や形が似ているものは見つけにくいことがわかります。

そこで、鳥がえさの昆虫を探す時に昆虫がどういう形や色だったら捕まりにくいかを考えさせます。子どもたちが人工物を探す体験と鳥が昆虫を探すことがつながれば、すみかの色と似た色をしているなど、昆虫の擬態の意味を子どもたちは実感します。

これをきっかけに「カブトムシの体の色は、木の幹に似ている」「茶色のバッタと緑色のバッタがいるのは、住むところがちがうから？」と、昆虫の形や色についての疑問や興味が広がっていくことでしょう。

参考資料

ネイチャーゲーム協会のHP <http://www.naturegame.or.jp/>
『自然のかくし絵』 矢島 稔著(偕成社)
『ネイチャーゲーム1』 ジョセフ・B・コーネル著(柏書房)